

1 アカボシゴマダラの幼虫



エノキの葉に体を固定して、動かなくなりました。後は、葉が枯れて落ちれば、地面の落ち葉の中で越冬です。体色が枯れ葉色になっているところが巧みです。

2 ハラビロカマキリの卵鞘



カマキリの成虫は姿を消し、卵がたくさん入った卵鞘があちこちに見られるようになりました。ちなみに、カマキリは種類によって卵鞘の形に特徴があり、ハラビロの場合は矢印のように突起が出ています。



3 オオカマキリの卵鞘

オオカマキリの卵鞘は、明るい色とその大きさが特徴です。スポンジのように柔らかそうな見た目ですが、触ると硬くてしっかりしていることが分かります。



4 カブトムシの幼虫

さなぎの一步手前の3齢幼虫に成長しました。冬の間は、今までよりも深いところにいるので、探すのにも根気が必要になります。



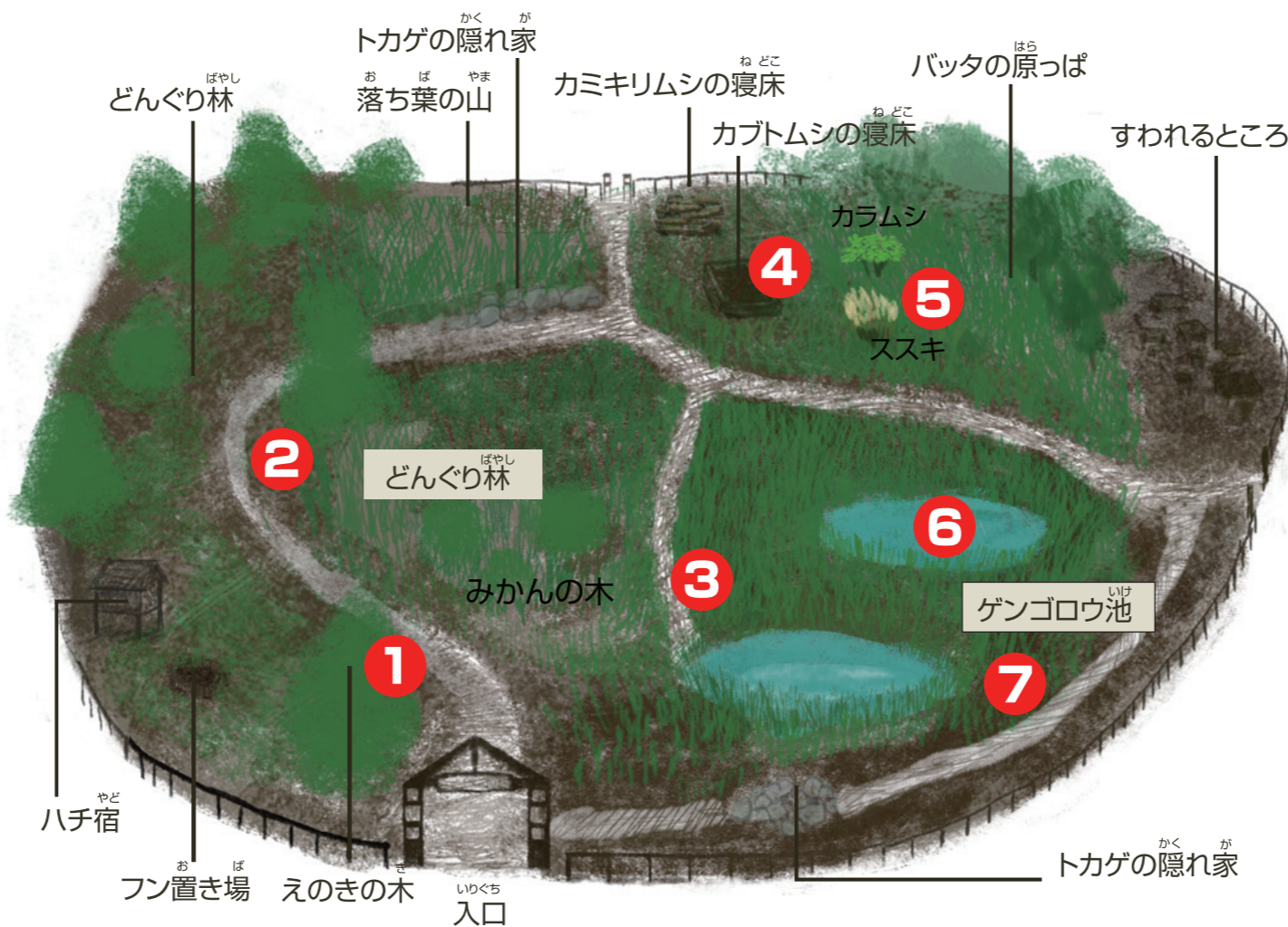
5 クビキリギス

暖かい日の昼、ススキの株からクビキリギスが出てきていました。ススキは地面から30cmほどを刈り残してあります。この中ではバッタのなかまやクモのなかま、ヒキガエル、トカゲなどが越冬します。

今月の

いきもの広場

いきもの広場は、動物園の中に作った「近所の自然」です。広場のなかには様々な環境や生き物と出会うための小さな仕掛けがたくさんあります。11月らしい晩秋の寒さの中、いきものたちのほとんどは冬越しの準備を終えています。しかし、中にはまだ元気に動き回るいきものもいます。



7 アカスジキンカメムシの幼虫



笑った顔のような模様がかわいいカメムシです。幼虫は落ち葉にまぎれたり、樹皮のすき間にもぐったりして、寒い期間をしのぎます。

6 ギンヤンマのなかまのヤゴ



今年もギンヤンマのヤゴが見つかりました。ゲンゴロウ池で見つかる中では一番大きく、水中では落ち葉や水草につかまっているようです。他にも泥の中にはシオカラトンボやコノシメトンボと見られるヤゴがいました。